

2019年度(令和元年度・第6期)事業計画(案)

一般社団法人 全国コミュニティ財団

新規/継続	事業名	2018年度事業(参考)	本年度事業内容	担当理事	実施時期	実施地域	予算(収益)
(1) コミュニティ財団や地域社会についての調査研究							
新規	プロスポーツとの連携による地域社会の価値創造に関する研究	コミュニティ財団のガバナンスを強化するために、その監事に求められる役割を感じによるワークショップで検討し、そのアウトプットとして監事向けの研修会を開催し、23名の参加を得た。 トヨタ財団助成事業	Jリーグなどのプロスポーツと地域社会における社会課題解決や価値創造に関するプロジェクトの組成やそのための調査研究を行う。	山田 有井	6月～5月	東京など	0
(2) コミュニティ財団業務の改善についての研究企画							
継続	第三者認証及び通報窓口の運営	ガイドラインのセルフチェックの普及と共に第三者による評価委員会設立を目指してその準備会の開催準備を行った。 また、遺贈寄付の推進をさらに図るために11地域において専門家やNPO向けの勉強会や研修を開催し、行政機関等も含めた推進コミュニティの形成を図った。 トヨタ財団助成事業	昨年度から開発を行ってきた第三者認証を正式に開始すると共に、簡易的な通報窓口機能をもつ。	可児 小阪	6月～3月	全国各地	1,000,000
(3) 関係団体、機関、官庁などに対する意見の開陳ならびに連絡							
継続	各種政策への提言、ロビイング	引き続き、休眠預金未来構想プラットフォームに参画し、提言を行った。	税制及び休眠預金など関連の政策に対する情報の収集、ロビイング、要望書提出などにより必要な提言を行う。	石原	通年	全国各地	0
(4) 会員の職員などに対する研修の実施ならびに会員の行う教育についての調査研究							
継続	理事及び監事研修の実施	コミュニティ財団のプログラムオフィサーに必要な役割を、助成事業管理、案件形成、新領域開拓の3つに分け、それぞれ現地研修や座学研修により開催をした。新領域開拓は東京在住の地方出資者向けにセミナーを開催し32名の参加を得た。 日本財団助成事業	会員CFの理事及び監事向けの研修会を開催し、ノウハウの共有や相互研鑽を行う。	小阪 可児	2回程度	東京など	280,000
(5) 会員相互が連携して実施する事業の企画ならびに実施							
継続	コレクティブインパクトに関する実践	全国13地域にコレクティブインパクトのモデル事業を引き続き展開し、新しい課題解決の仕組みを構築した。 日本財団助成事業	必要な財政確保を行いながら、CFがバックボーンオーガニゼーションを務めるコレクティブインパクト案件の支援を行う。	鈴木 志村	通年	全国3地域	36,000,000
継続	遺贈寄付の推進		全国レガシーギフト協会と連携した遺贈寄付に対する理解促進や相談対応に関する研修の実施などを行う。	山田 石原	通年	全国10地域	600,000
継続	寄付月間		日本ファンドレイジング協会などが展開する寄付月間の取り組みに参画し、寄付に関する継月や推進を行う。	志村 山田	通年	各会員地域	0
(6) 会員相互の親交、連絡、情報共有							
継続	年次大会及びブロック会議の開催	コレクティブインパクトの取り組み共有と共に、SDGs達成のために地方でコミュニティ財団が担う役割をテーマに対談などを行い、71名の参加を得た。 日本財団助成事業	CFの普及と必要な情報の共有や会員間の交流のため各ブロックでの会合と年次大会の開催を行う。	石原 山田	年1回	京都市 または東 近江市	200,000
(7) 前各号に掲げる事業に付帯する又は公益に関連する事業							
継続	ウェブサイトの運営	コミュニティ財団の紹介やSDGsに関する取り組みなどを紹介するウェブサイトを作成した。	CFのつくり方などのノウハウやSDGsに関連してCFや支援先の取り組みを紹介するウェブサイトを運営する。	石原	通年		0
							38,080,000